

くまもと経済

表紙の人

山下 和貴
サンワハイテック 社長
未来型電動カートSTAVI, 年間売上440台目指す



特集

県外市場に勝機アリ、地場企業の戦略 地場主要企業決算と役員人事(後編)

【企業取材・インタビュー】

宮本誠二 化学及血清療法研究所理事長 / 高橋正憲 オムロンリレーアンドデバイス社長
廣川昌哉 九州旅客鉄道取締役熊本支社長 / 布井吉治 熊本薬房社長
岩田英志 岩田コーポレーション社長 / 北橋健治 北九州市長

【政治レポート】

齊藤 聰 熊本市議会議員 / 鈴木 弘 熊本市議会副議長 / 住永幸三郎 益城町長

資料 2009~12年度農業参入企業

富合町古閑にサービス付き高齢者向け住宅

にしくまもと病院

(医)相生会 にしくまもと病院 (熊本市南区富合町古閑、林茂院長) は、同地にサービス付き高齢者向け住宅を開設する。11月末の完成、来年1月6日の開所を目指す。

場所は国道3号沿い、同病院敷地内北側の鉄骨造り2階建て病棟の2階。名称は「ホスピタウンハウス」。床面積は930㎡。居室は33室で、専有面積は18〜24㎡。すべてトイレ、洗面所、収納付きで、食堂や浴室は共用。特定施設入居者生活介護の指定を受け、介護保険サービスも提供できる。入居対象者は満60歳以上で要支援・要介護認定を受けた人まで。胃ろうやペースメーカー使用者、インシュリン使用者、悪性腫瘍がある人など、医療依存度の高い人も相談の上受け入れ、看取りまで行うという。また、同病院と渡り廊下つな



▲にしくまもと病院敷地内に開設予定のサービス付き高齢者向け住宅「ホスピタウンハウス」(イメージ)

がつており、緊急時の対応や医療的な相談がしやすいなどの特徴がある。月額費用は家賃、共益費、食費などを含め14万5千円など。現在入居者を募集している。

同院は「医療や福祉が充実した街づくりをホスピタウン構想と呼び推進しており、ホスピタウンハウスの完成が構想実現に向けた大きな一歩となる」と話している。

くまもと循環型社会賞を受賞

自然と未来

バイオディーゼル燃料(以下、BDF)精製販売の自然と未来(株)(熊本市東区小山2丁目、星子文社長)は7月11日、熊本県が主催する第22回「くまもと環境賞」でくまもと循環型社会賞を受賞した。

くまもと環境賞は熊本県がより豊かな環境の保全・創造に関する活動に功績があった個人や団体を対象に表彰するため、平成3年から毎年実施しているもの。同社は飲食店や家庭などから集められた食用廃油を自社プラントでBDFに精製する事業を行っている。昨年からは「わくわく油田プロジェクト」と銘打って、

スーパーや飲食店などに廃油回収ボックスの設置、回収する事業を開始、回収ステーションの増加とともに活動が拡大していることなどが評価された。星子社長は「崇城大学や熊



▲表彰状を手に「BDFの取り組みを広げていきたい」と話す星子社長

本学園大学をはじめ、多くの学校で廃食油の回収がスタートしており、トラックや収集車、建設重機、農業機械などで当社のBDFを幅広く使用する企業も増えてきているなど、廃食油を再生エネルギーに循環させる取り組みは確実に広がってきている。これを契機にエネルギーの循環型モデルをさらに広げていきたい」と話している。